



文化・人間・聖なるもの—社会学的研究

人文科学系・人文社会学領域

小川 伸彦

教授

OGAWA Nobuhiko

文学修士(京都大学)

■研究キーワード 文化社会学、文化遺産の社会学、表象とメディア、聖なるもの、E.デュルケム研究

■主な所属学会 社会学研究会、関西社会学会、日仏社会学会、日本社会学史学会、日本社会学会、デュルケム／デュルケム学派研究会

■研究者総覧 <https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.dc3a206d0ed77b9a520e17560c007669.html>



研究者総覧

研究概要

■関心のあるテーマ:文化(意味や価値)の作られ方、文化遺産と社会、記憶の社会的な保存、宗教以外の聖なるもの

■主な著書や論文(書誌情報は上記「研究者総覧サイト」を参照してください):◆理論研究=デュルケム儀礼論への一視角—二つの規範と「社会」の実在性、デュルケムの「中間集団」のジメルの「大都市」—<自由>のための二つの場所◆文化遺産論・記憶論=『文化遺産の社会学—ルーブル美術館から原爆ドームまで』(共著)、『社会学で読み解く文化遺産:新しい研究の視点とフィールド』(寄稿)、『環境社会学事典』(文化財の項)、制度としての文化財—明治期における<国宝>の誕生と宗教・美術の問題、保存のかたち—文化財・博物館の社会学のために、存在と記憶—戦争による死はいかに表象されるか、事件・シンボル・制度—法隆寺金堂壁画焼損と「文化財」の文化社会学、高松塚古墳壁画発見報道の文化社会学的分析—新聞記事にみる価値とイメージの生成、文化遺産の三要素—日本の事例より、語りと文化遺産—ある寺院における案内解説の分析より、芸能化される記憶—「義士踊り」の事例より、法隆寺に映る文化財保護史、文化のコントロール—文化財保護法の立法過程分析、宝物・国宝・文化財—モノと象徴のポリティクス／ポエティクス◆民族まつり論=民族まつりへのアプローチ—京都・東九条マダン研究序説—、民族まつりポスター図像の内容分析—京都・東九条マダンを事例とした文化社会学的研究一、◆その他=『<当事者宣言>の社会学:言葉とカテゴリー』(共編)

◆コロナ禍論=〈異〉なるものの生成と寛容／非寛容—コロナ禍におけるナラティブとしての漫画作品より、コロナ禍はどのように論じられているか:COVID-19への三つの視座、コロナとC O 2

◆教科書・一般書=『現代文化の社会学入門』(共編)、『社会学の基本 デュルケムの論点』(共編)、『大学的奈良ガイド』『続・大学的奈良ガイド—新しい見どころ60編』、都市とコミュニティー都市研究には社会学のどんな姿が映し出されているか一、ほか



アピールポイント

■社会学とは?■社会学はその名のせいで、「社会」そのものを研究するのだと思われがちです。でもそれは正確ではありません。実は、社会学とは特定の視角から人間を研究する学問なのです。では「特定の視角」とは、なんでしょうか。それは、人間が他者とともに生きているということの重視です。

そして、家族や友人といった知っている他者だけでなく、会ったことのない他者やこれから会うかもしれない他者との関係もふくめて考えます。そこは社会的な世界なので、「社会」学となるわけです。

そこで生きるわたしたち人間は、他者とつながりたいけどひとりも好き、という欲張りな動物です。いいかえば<個人化と連帯>。このふたつが両立する社会をどうやって構想するのか。これこそ社会学がずっと追究している大問題のひとつです。

■「文化」の素晴らしさとこわさ■「ひとりでいたい」、という時も、ひとはただぼーっとしているわけではありません。美味しいものを食べたり、動画をみたり、本を読んだり、絵を描いたり、..、ではないでしょうか。そして、料理もさまざまなコンテンツもそれらはほとんど全部、文化的なジャンルです。つまり、人間はひとりでいると思っている時も、文化をつくったさまざまな先人とつながっていることになります。また、創った作品や撮った写真などをだれかに見せたいと感じるなら、それも他者とのつながりへの希求です。つまり「文化」は、<個人化 VS つながり>という一見相反するものを両立させる絶妙な接着剤的働きをするわけです。その一方で、この接着剤のはたらきが強すぎて、「われわれの文化」が強固になりすぎると、「あいつらの文化」を否定したり無視したりということが起きます。古来から存在する宗教対立などはそういう側面を持っています。迫害されたり殉教したりと、人の命にかかわるほどのことがそこからは生じます。

文化がもつ問題解決の力と、問題をもたらしてしまうこわさ。この両方に目配りしながら、文化遺産・まつり・災害など一見ばらばらなものを、メディアの働きにも着目しつつトータルな視点で研究していることが私の研究のアピールポイントです。